

患者さまとそのご家族に安心と信頼をお届けするマガジン／

はつらつ通信

2018.1.1 JANUARY vol.146

発行：医療法人北志会 札幌ライラック病院 編集：はつらつ通信局



明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年は、突然の解散総選挙などもあり慌ただしい印象の一年でした。社会的には今後も進む少子高齢化に向けて待ったなしの状態であり、医療費の抑制や地域医療対策などさまざまな問題は恒常的な検討課題となっています。

昨年大きく取り上げられることの多かった格差拡大の傾向は医療の面でも見受けられました。しかし、すべての生命は等しく尊いものであり、医療サービスは平等に提供されるべきと考えます。今後も当院はすべての患者さまに対し敬意を持って十分な医療・介護の提供を目指します。

昨年初頭のあいさつでは病院のキーワードとして「質」と「和」を挙げました。1年間、私をはじめ職員一同がお褒めの言葉や、時にはお叱りの言葉もいただきながら、地域の皆さまと共に歩む中で成長できたと感じております。

本年は引き続き「質」と「和」を大事にしながら、さらに「温：おん」というキーワードも加えたいと思います。施設の先進性をうたう病院が少なくない昨今ですが、当院は来院していただいた時に心温まるような、なんだか懐かしいような、そんな気持ちにさせてくれる病院でありたいと願っています。安心・信頼・満足の医療を実践しながら、患者さまやご家族、地域の皆さま、さらには当院職員も癒されるような病院づくりができればと思います。

その一環として、ご好評をいただいております「びょういんあーとぶろじえくと」は本年も引き続き行います。より良い医療サービスを提供するにあたり、我々医療者は豊かな心で患者さまに接することが重要であり、患者さんのみならず当院職員にとっても癒しになっている「びょういんあーとぶろじえくと」は医療の質向上にも寄与しています。今後はこの試みを患者さまのご家族や地域の皆さまにより広く認知していただき、当院が少しでも地域に癒しの場を提供するお役に立てればと考えています。

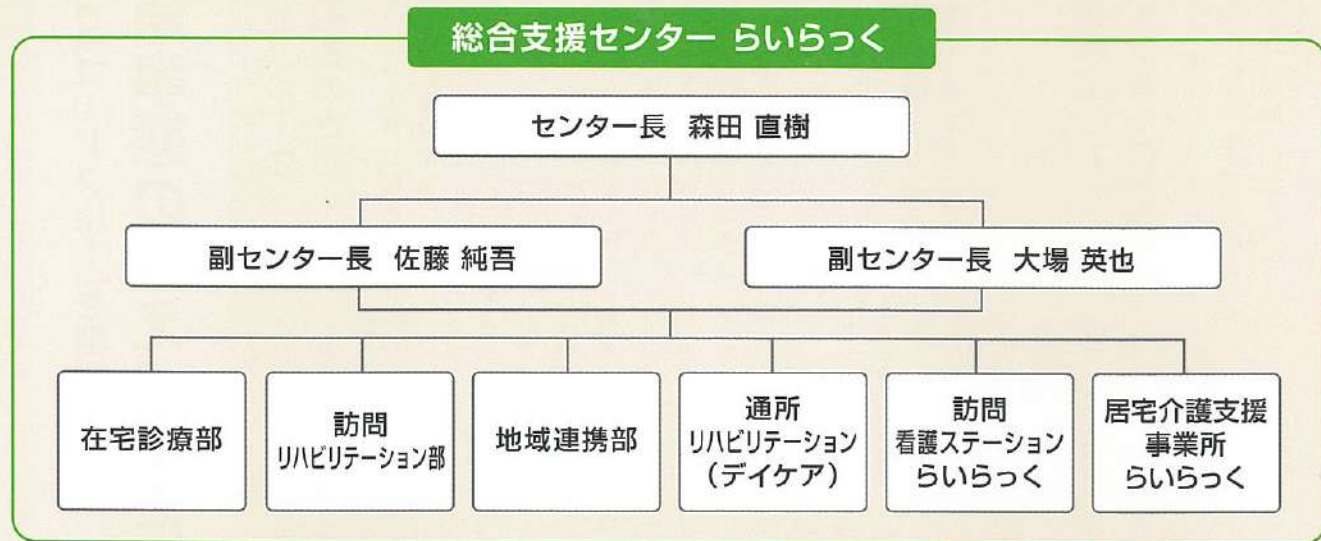
本年もよろしくお願いたします。



医療法人北志会
理事長 志田 勇人



総合支援センターらいらっく 6つの機能を1カ所に集約 総合支援センターらいらっくの組織構成は下図のようになっています。



在宅診療部
 医師3名が患者さまのご自宅を定期的に診療しています。365日24時間体制で往診や看取りの実績を積み重ね、3年前からは年間一定件数以上の実績を持つ病院だけに認められる機能強化型の在宅療養支援病院となっています。

訪問リハビリテーション部
 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士といった当院のリハ専門職が、主治医の指示のもと、患者さまのご自宅を定期的に訪問し、身体機能の維持・回復に必要なリハビリを行います。

デイケア(通所リハビリテーション)
 デイケア室にて日帰りのリハビリを行っています。専任の介護職員9名が常駐して送迎を行い、昼食、入浴、運動、レクリエーションなどご利用者さまの一日の活動をサポートしています。

地域連携部
 相談員とも呼ばれるMSW(医療ソーシャルワーカー)3名が、他の医療機関からの転院や入院の相談、病棟の患者さまの退院支援、地域交流活動の企画調整などを行っています。

訪問看護ステーション
 訪問看護専任の看護師3名が主治医の指示のもと、患者さまのご自宅を定期的に訪問して食事や運動、服薬の指導などを行い、適切なケアやアドバイスで療養生活を支援しています。

居宅介護支援事業所
 ケアマネジャー(介護支援専門員)2名が、介護についての相談業務や要介護支援の申請代行、介護保険を使って在宅サービスを組み立てるケアプランの作成、などを行っています。



デイケアのご利用者さまが体操中



訪問リハ中の小山内豊美理学療法士



訪問診療中の平井修二副院長

総合支援センターに新しいセンター長が着任

地域の方が一番最初に相談できる場に

新センター長のもとで、地域と医療福祉サービスをつなぐパイプをより多く、より太くする取り組みを強化

着任の新センター長は地域でお馴染みの職員

昨年11月1日(水)、総合支援センターらいらっくに新しいセンター長として森田直樹センター長が着任しました。過去に当院の在宅サービスを利用したことのある方には、名前と顔に覚えがあるかもしれません。



センター内での打ち合わせ

森田センター長は12年前に当院にケアの主任として入職。翌年には、現在の総合支援センターの前身ともいえる在宅サービス課の新設にあたり、統括課長として訪問看護や訪問リハ、地域連携室などの各部門を横断的に把握し、在宅サービスの総合窓口としての役割を務めました。

その発展形として2011年の組織改編でできた在宅支援部では部長を務めました。その後特別養護老人ホームの総合施設長等を務め、昨年当院に着任となりました。

「人工透析が必要な方など、病状の重い患者さまが増えましたね」と古巣の印象を語る森田センター長。「でも、総合支援センターの職員はほとんど変わっていません。ここは働きやすい職場だということですね」と喜びます。

地域と病院をつなぐ中間的な立場での役割

今後は、さまざまな部門に勤務してきた森田センター長の経験とネットワークを生かし、地域と病院をつなぐパイプ役として、ルートを増やし、パイプそのものも太くして、総合支援センターの機能強化を目指します。

例えば、現在の入院の問い合わせは市内の大規模病院からの転院が大半ですが、親の入院先を探している方、従業員から介護相談を受けた企業など、点在している切実なニーズは確実にあります。それを丁寧な対応し、適切な体制づくりを進めたいと考えています。



森田直樹センター長

1972年、福島県相馬市生まれ。老人保健施設、居宅介護事業から民間企業において医療福祉分野のさまざまな現場を経験。当院には2006年に入職し、特別養護老人ホームらいらっく(札幌市南区)など関連施設での勤務を経て、2017年10月に当院に再着任、11月1日から現職。

森田センター長。今年はまだ4月に行われる診療報酬・介護報酬の改定による不安の解消に努める予定です。



さまざまな機能を持つ総合支援センター

院内で「コードブルー」を訓練 緊急事態の備え、万全に

コードブルーは 緊急招集の合図

コードブルーは、病院内で患者さま等に急変があったことを知らせる職員を招集させる緊急コールです。緊急時により必要なのはマインパワ。そのため館内放送でコードブルーが発令されると、手が空いていて持ち場を離れることが可能な職員は、医師も看護師も事務職も全職種がその患者さまのもとへ駆け付けることになっています。

急変を想定して コードブルーの訓練

当院ではこのコードブルーの訓練を10月23日(月)に行いました。緊急コールにつ

いては職員間で周知されていましたが、「一度訓練で経験して備えておきたい」と医療安全管理室の加藤明子主任の強い希望もあり、第1回となる訓練の実施に至りました。

午後1時過ぎ、リハビリ室で患者さまの容体が急変した想定で訓練開始。リハ職員が総務課に連絡し、事務職員が館内放送で「業務連絡。コードブルー、リハビリ室」と院内呼びかけ、動ける職員がリハビリ室に集結。想定の発生場所を事前告知せずに行った訓練でしたが、駆け付けた職員は30名にもおよび、医療安全管理委員長を務める板橋健太郎医師も「職員が迅速に集まり、大変よかったです」と評価しました。



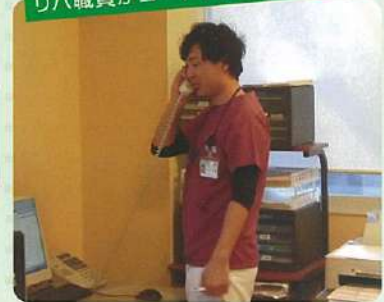
ドクターの指示のもと臨機応変に対応



館内放送を聞いた職員がリハ室に続々と集結



リハ職員がコードブルー発令を要請



札幌ライラック病院は、
機能強化型 在宅療養支援病院です。

機能強化型在宅療養支援病院とは、
下記の要件を満たした病院です。

- ・3名以上の医師が在宅訪問診療に配置
- ・緊急での往診実績が年間10件以上
- ・看取り実績が年間4件以上



送迎付き 企業健康診断

当院では、企業が定期健診や雇用時健診に利用しやすいよう、一般の健診とは別体系の料金を設定しています。無料送迎にも応じますので、医事課までお気軽にご相談ください。

例) 基本健診(聴力・視力・尿・貧血・脂質・血糖・肝機能・胸部X線の各検査、身体測定、問診)

一般料金 **6,000円** 企業料金 **4,000円**



医療法人 北志会

札幌ライラック病院

〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号

☎ **011-812-8822**

診療時間 【平日】 9:00~12:30
13:30~17:00
【土曜】 9:00~12:00
面会時間 【平日】 14:00~20:00
【土日祝】 12:00~20:00

URL <http://www.lilac.or.jp>



「はつらつ通信」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

TEL:011-812-8822 E-mail:ooba-h@lilac.or.jp (編集委員:大場・佐藤)